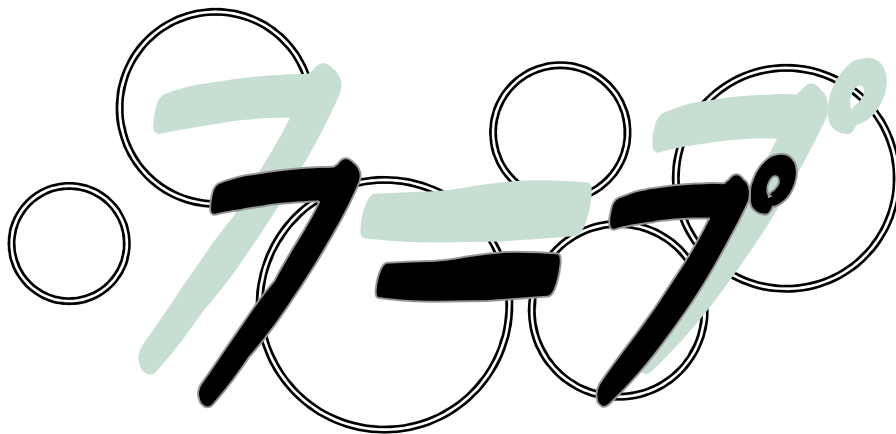
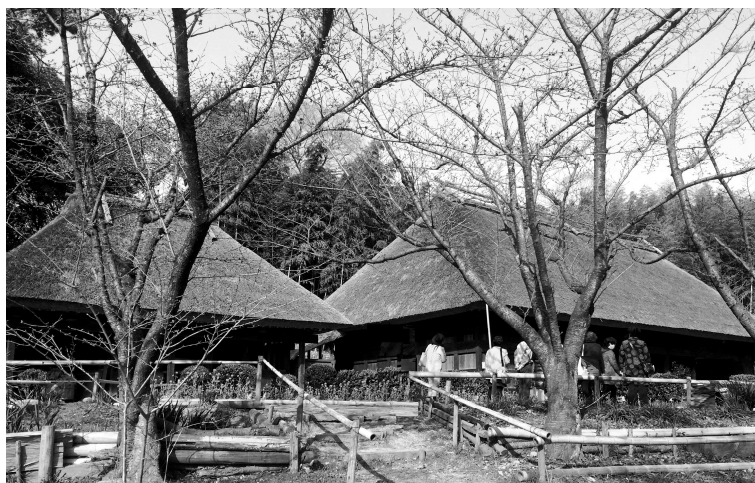




～（女性建築士の輪）～

奈良県建築士会 女性委員会
2015 年 春号
第 82 号



目 次

■ 第 24 回全国女性建築士連絡協議会に参加して	岩城 由里子	1 ページ
■ 女性委員会見学会に参加して		
竹中大工道具間～日本民家集落博物館	山本 規子	5 ページ
■ 和室の話③ ～～壁～～	上田 壽子	7 ページ
■ 私と建築	三木 ひとみ	8 ページ
■ 今後の事業予定		9 ページ

第24回全国女性建築士連絡協議会に参加して
岩城由里子



2月27、28日に東京で開催された全国女性建築士連絡協議会（全建女）に参加しました。

27日の午前中は、全国から集まった女性委員長の委員長会議でした。本保委員長は連合会女性委員として出席されていたため、代理で出席させていただきました。会議では議事その他、全国各ブロックの活動報告が行われました。



そのあと全建女が開会されました。今年度のテーマは「未来へつなぐ居住環境づくり ～大切にしたい暮らし方～」でした。1日目は、式典、基調講演、事業報告、活動発表、それから被災地における現状報告と取り組みの発表がありました。



基調講演は“ネイバーフッド（neighborhood＝近所近隣）デザイン”を提唱されている荒昌史氏（HITOTOWA INC 代表取締役）による「東日本大震災

から学ぶ“よき避難者”を育成する防災減災」でした。“ネイバーフッドデザイン”という言葉は「近くで暮らしている人々の人間関係のデザインを通じた“社会課題の解決”」という意味で、“都市にご近所付き合いを作って、社会の課題を解決しよう！”という方法論のことです。“都市で作るご近所付き合い”の多種多様な切り口や可能性について、大変興味深い話をお聞きすることができました。



“よき避難者を育成する“というテーマでは、避難の原点、自助と共助の重要性、時間の経過により発生する問題の変化、帰宅困難者や避難所の運営についての話をお聞きしました。今年は阪神淡路大震災から20年の節目の年ということもあり、テレビやネットで多くの震災関連の報道がなされていました。震災後の対応の成果や課題、現在まで続いている問題、また、近年中に発生する可能性の高い南海トラフ地震に対する備えについても発信されていましたが、“よき避難者の育成“という観点は、人口密集地の首都圏に限らず、地方や地域でも真剣に学びシミュレーションすることが減災につながると思いました。事業報告では在宅要介護高齢者の住まいの在り方や地域高齢者居住環境についての報告があり、活動発表では秋田士会の子ども向けワークショップ「気持ちのいい家をつくろう」と、東京士会の伝統的建築物活用「酒づくりとまちむすび」の発表がありました。被災地の報告と取り組みでは、福島、宮城、岩手、千葉の4県の方の報告がありました。

福島の女性委員会では放射線対策住宅の仕様の研究をされていて「考えよう！明日を担う子供達のた

めの住まいづくり」という冊子になって、連合会女性委員会から700円で販売されています。放射線の種類による透過性の違いなどの詳しいデータも掲載されています。



宮城の報告“ふるさと再生&「記憶の中の住まい」”は、震災で家を失くした方に向けた活動で（女性建築技術者の会との共同事業）、それまで長く暮らしていた家のことについて何度もヒアリングをして、暮らしぶりのコメントを書き込んだ図面（平面図）を作成してお渡しするというボランティア活動の報告でした。震災後すぐではなく、少し落ち着いてからの活動とのことでしたが、完成した図面を受け取られた方はみなさま大変喜ばれたそうです。日常の暮らしの“記憶”が生きる心の支えになることを思うと、とても感慨深いものがありました。この「記憶の中の住まい」の活動は女性建築技術者の会でされている活動で、「アルバムの家」という本も出版されています。この本は、同会会員の33名の方が、10代の頃に住んでいた家の平面図と暮らしぶりを1冊の本にまとめられたものです。40～70歳代の方が10代の頃の家のことですので、暮らしを取り巻く時代背景も現在とはかなり違いますが、そこに家長制度があったり、家で生業をされていたり、



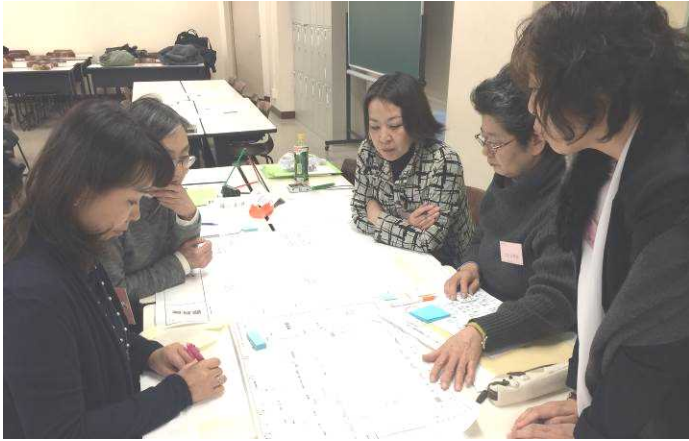
また、官舎や社宅（借家）であったりと、多種多様な33の家が出てきます。（全て平面図付き）設計を生業としている女性の“子どもの頃の自分の家”に対する目線は、大変面白かったです。（全建女終了後に購入しました。）

2日目は8つの分科会に分けられました。（内容は後述）今回、本保委員長はA分科会「震災①防災への取り組み」の司会をされ、私はこの分科会のアシスタントをしました。大阪と神奈川の二府県の女性委員会の方が発表をされ、建築士としてどのように防災に取り組むかを考えました。大阪の発表は「小学校高学年の子供たちがいのちを守る住まいづくりについて学ぶ“こども住まいらぼプロジェクト”」の実践報告でした。ストローハウスづくりの出前授業で家の構造と仕組みを学ぶ子供たちの様子や反応をお聞きしました。参加者の私たちも実際にストローハウスを作ってみました。ストローハウス作りは他県の建築士会等でも実践されているところがいくつかあるとのことでした。



神奈川の発表は「避難所の空間構成と建築士のかかわり」と「避難所運営の疑似体験“HUG”」の実践報告でした。HUGについてはグループに分かれて実際にワークショップを行いました。設定場所は、地震発生後2時間経過した避難所（小学校）です。次々と来られる避難者（名前、年齢、住所情報がアナウンスされる）ひとりひとりの情報が書かれたカードを小学校の大きな平面図に配置する作業ですが、次々と手際よく対応しなければなりません。避難者の居場所を体育館に設定するグループが多かったのですが教室に設定するグループもありました。家族づれ、高齢者、体調の悪い人、親とはぐれた子どもたち、外国人のボランティア志望者、そして仮設トイレも運ばれます。トイレはどこに。そのうち大量に救援物資が届きますが置場はどこに、車はどこに。予測しながら考えますが、避難所運営の知識

が無ければ適切な判断ができない状況に陥りやすいことがよくわかりました。



ワークショップ終了後の意見交換では、実際にＪビレッジで避難所を運営されていた方や、避難所体験をされた方の意見もお聞きました。避難所の過酷な状況や、避難が長期化した時のこと、物資の置き場の意外な重要性についてもお聞きました。女性の更衣場所も忘れられがちで、適切な場所の確保が初期より必要とのことでした。避難所を運営していた方の提案として、避難所の場所を知らない方が意外と多いので（観光者等の地域の住人以外の方も含め）、指定避難場所の常備品の中にアドバルーンを設置し、災害発生時にはまずアドバルーンを上げ、徒歩の方も車の方も遠くからでもアドバルーンを目がけて避難所に来ることが出来るようにすると、避難の混乱が避けられるとおっしゃっていました。また、小学校が避難所の場合は体育館に避難者が寝泊まりするケースが多いそうですが、体育館の環境は劣悪なので避難者は教室に誘導する方が望ましいという意見もありました。（体育館は大量の救援物資置場に望ましい。屋根が必要。）しかしながら、小学校は早期の再開が望まれるので、長期化する可能性がある場合の教室の使用は難しく、そのような意味で小学校は避難所として不向きであるという意見も出ました。いろいろな意見をお聞きしていると、自分自身の防災意識の低さと無知さ加減がよくわかり、大変勉強になりました。

本保委員長がこのＡ分科会の内容をまとめ、分科会終了後の全体会で報告されました。



全体会の最後に、連合会女性委員長より女性委員会の発信するアピール文が読み上げられました。今回の全建女では震災防災関連のことを多く学ばせていただき、とても充実した２日間でした。



防災関係のレポートばかりになりましたが、全建女では毎年さまざまな分野の取り組み発表があります。今年度の分科会内容は以下の通りです。

- A 震災①防災への取り組み
- B 震災②ボランティア活動の報告
- C 歴史的建造物と建築再生
- D 素材と環境共生住宅
- E 景観とまちづくり
- F 子どもと住環境
- G 高齢社会と福祉住宅
- H 集まって住む

C分科会に参加された方の報告をご紹介します。

C分科会テーマ：『歴史的建造物と建築再生』

あいちトリエンナーレ 2013 パートナシップ 事業報告

昭和初期にタイムスリップ：デザインツアー

『揚輝荘「聴松閣」でクラシックを楽しむ』

あいちトリエンナーレ 2013 パートナシップ事業

として、（公社）愛知建築士会が所属しているCCDO（中部デザイン団体協議会：現15団体所属）からの依頼で、建築士会メンバーが中心となった修復修理を終え2013年8月に公開される揚輝荘・南園「聴松閣」～北園までの昭和初期の名建築を、専門家（インタープリター）の解説を交えて見学し、クラシック演奏とともに楽しむ日帰りデザインツアーが開催されました。企画は、中部デザイン団体協議会デザイン啓発事業委員会（愛知建築士会5名・中部デザイン協会3名・中部プランナー協会1名・サインデザイン協会1名・日本グラフィックデザイナー協会1名・日本建築家協会1名 合計12人）



見学場所の揚輝荘は（株）松阪屋初代社長・15代伊藤次郎左衛門祐民（伊藤呉服店）が大正から昭和にかけて覚王山・日泰寺の東南に隣接する約1万坪の森を切り開いて築かれた名古屋市郊外別荘の代表作。その構築は、大正7年、茶屋町本家から三賞亭（煎茶茶室）を移築した事に始まり、約20年で完成。

最盛期にはこの敷地に大小30数棟の建築（多数の茶室を含む）と京都の修学院離宮の影響を受けたと思われる池泉回遊式庭園やテニスコート・温室・弓道場などが配され、皇族や華族、政治家、文化人の社交の場として華やぎました。名古屋の経済界の実力を示す歴史的な遺産であり、その壮大さと質の高さは伊藤次郎左衛門祐民の高雅な趣味と造詣の深い茶道を活かし、全体としてひとつの考えのもとにつ

くられています。しかし、1945年の空襲で多くの建物を失い、2007年名古屋市内に寄附され、順次、修復整備が行われ、市民共有の歴史的文化遺産として保存活動が進められています。（注）現在は、南園と北園に分断されています。

～文化財的建築の活かし方～

○文化財行政

・凍結保存から保存活用へ

～H8年法改正（阪神淡路大震災）

・文化財保護法57条有形文化財の登録

→緩やかな保護措置

○ヘリテージマネージャーについて

・登録基準に合った建物を保存・活用する手助け

↓

（交渉と世話）

・歴史的景観に寄与・造形の規範・再現が困難なもの

○課題「活用」

五感（視覚・聴覚・臭覚・味覚・触覚）をヒントに凍結保存＝博物館的活用や「重要伝統的建造物群保存地区」などの歴史的町並み、社寺建築以外の単体建築物（特に民家・住宅など）をどのように活用するか

○現状の問題点

住宅として：使い勝手が悪い改造内容が登録要件外
ショップなどアンテナとして： //

地域交流の核として：維持費の問題

⇒近未来の空家対策につながる・・・

デザイン都市名古屋実現に向けた異業種デザインネットワーク内の活動をからめた、愛知県建築士会のCCDO（中部デザイン団体協議会）組織内における役割や、「揚輝荘（ようきそう）」の概要と改修の背景、広告手法など、幅広いデザイン啓発活動の発表が有り、歴史的建造と建物再生のテーマだけでなく、建築士会としてのこれからのあり方にも影響があると考えられます。

< 全建女奈良開催のお知らせ >

平成28年度（次々回）の全建女は、奈良で7月に開催する事になりました。主催は連合会女性委員会ですが、開催県として、皆様には準備部会への参加を何卒宜しくお願い申し上げます。また、次回の全建女は今年の9月に東京で開催されますので、奈良から大勢で参加して奈良のアピールをしましょう！

女性委員会見学会に参加して

竹中大工道具館～日本民家集落博物館

山本 規子



今年度から女性委員会が取り組んでいるテーマのひとつが「和室について」です。改めて「和室とは？」と考え、どのような掘り下げ方・広げ方をしていくかを模索するためにも、原点を勉強しようと、3月21日、竹中大工道具館、日本民家集落博物館の見学会が開催され、総勢16名が参加しました。

竹中道具館は、開館より30年を迎えた昨年10月、展示面積を1.8倍に増やし、内容も刷新された新館が、JR新神戸駅の近くに新築されました。

竹中道具館は、開館より30年を迎えた昨年10月、展示面積を1.8倍に増やし、内容も刷新された新館が、JR新神戸駅の近くに新築されました。



個人の邸宅にあるような門をくぐり抜けたところの、少し小高い位置にある本館は、地上1階、地下2階建てのRC造（一部S造）ですが、外から見上げると、軒の深い寄棟屋根と、壁面のほぼ全面がガラスで出来ているため、縦のボリュームが感じられず、後ろの六甲山の借景もあり、森の中の庵のような佇まいでした。名栗仕上げの板を使った自動扉からエントランスに入ると、ロビーの天井は、スギの垂木が装飾として天井に並んでおり、棟は緩やかなアーチを描いています。この垂木は、合掌部分が相ジャクリで組まれており、この曲線を出すのに大変な苦労があったとお聞きしました。

地下1～2階の展示室には、左官職人久住氏作の削りだしの土壁を横に見ながら、110mmもの厚みのオーク材を踏み板にした階段を下りて行きます。こ

こには、大工道具の変遷、棟梁の仕事、日本と世界の大工道具との比較などが展示されていました。



圧巻は、179点に及ぶ大工道具一式で、昭和18年東京で調査され、本格的な建物を造るのに必要な標準編成とされた数だそうです。我が家の仕事場では、私がうかつに触ると怒られる道具が色々あるので、あまり関心を持って見ていませんでしたが、棟梁(主人)に聞いてみると、鑿(のみ)などはもっと数があり、鉋(かんな)はこのぐらいですが、鋸(のこ)や錐(きり)は、電動工具を使うため数が少なくなったそうです。驚くことに、昔、天理教の本部を造る時に、ここで名工として紹介されている何代目かの善作が鍛冶として招聘されており、その時に買いもとめた突鑿が家に伝わっていました。いずれの時代でも、道具にこだわり、大事にすることは、良い仕事をする基本のようです。

地下2階には、重要文化財大徳寺玉林院蓑庵の実物大スケルトン模型が設置されていて、小舞壁の構造や、細部の加工方法、土壁の工程などが判りやすく展示されていました。何層にも重ねられた塗りと工夫に、左官屋さんの、割れない壁を作る執念のようなものを感じます。



もうひとつの実物大模型として、唐招提寺金堂の柱と上部組物が、吹き抜け部分にそびえ立っており、地下2階から見上げるだけではなく、間近に組物が見られるようになっています。出来上がった表面はあくまでもシンプルに、内部に技術を駆使した継ぎ手、仕口が施されている様子も良く判りました。



今回は拝見できませんでしたが、春と秋には、敷地内の茶室「一滴庵」の特別公開もあるそうです。展示物以外にも、達磨釜で焼いた中庭の敷き瓦、鍛冶の手による案内サイン、聚楽土を混ぜた漆喰仕上げの外壁など、再度ゆっくり見学したいと思いました。

お昼ごはんをいただいてから、次は豊中市にある日本民家集落博物館に向かいました。「塩じい」こと塩川正十郎氏の生家から寄贈された河内の長屋門を潜ると、高低差のある敷地に、竹林や雑木林に囲まれた11棟の主に茅葺きの民家が点在しており、隠れ里に迷い込んだ錯覚に襲われます。



上記写真の飛騨白川合掌造りの民家は、この博物館が出来て、一番初めに移築された建物です。江戸中期のもので、雪や風に強く、1階は生活の場、通気の良い2階3階は養蚕の場にと、生活に密着した造りとなっています。丁度この4月から茅の一部葺き替えが始まり、その様子を一般公開されるということです。博物館のように、管理がゆき届くと思われる場所でも、人の住まない家は、茅の持ちが20年～30年と、住んでいる家の50年～80年と比べると半分以下になってしまうそうです。



宮崎県日向椎葉の民家は、現地では家の背後が山腹に接していて、湿気や落石を防ぐため、窓のない板壁で覆ってしまう造りです。逆に、表は縁側に広く開口部が設けられていました。縁側は広く、深い軒をもち送りを出してあり、茅葺き独特の厚みとのバランスが非常に美しいものでした。内部は囲炉裏を中心に、無目の敷居で隔てられた空間で、神楽が奉納されていたそうです。滋賀、岩手、奄美大島など、各地から移築された他の民家も、すべてその土地の風土、生活に密着した造りとなっていました。

ここで見た「和室」というのは、単にデザインや仕様の問題ではなく、生活そのものを日本の技術と材料で体現したものと感じました。勿論、生活様式も変わり、建築技術も材料も多様化した中で、「和室」の意味が違って当たり前ののですが、現代の「和室」を考えるにあたって、疎かにしてはいけない精神にふれることができたと思える1日でした。



最近、左官屋さんの仕事が減ってきています。内部はクロス貼り、外壁はサイディング張り、ましてや和室のないプランによく出くわします。和室はどこへ行ってしまったのでしょうか。私が建築の業界に入ったのは1968年・・・その頃は木造住宅でも土塗り壁の家が多くありました。それがだんだんラスボード下地壁の和室になり、しばらくはそれが和室の壁の定番でした。

昔々、土壁塗りはリサイクルできる素材でした。じゅらく壁は、京都聚楽第（秀吉が京都に作った邸宅）跡近辺から出た土を聚楽土と呼び、京都でよく使われていたことから「じゅらく塗り」という固有名詞になったようです。昔は壁土を解体して篩いにかけて、またその土を使用したらしく、まさにリサイクルできる材料でした。他に大阪土（天王寺土）、黄土（伏見稻荷山）などの土が使われていましたが、今はもう使われません。

土塗り壁は、竹を組んだ小舞壁にシュロ縄などを巻き付けて荒壁を造り、壁の片面を塗り上げます。古い住宅などには片面だけ荒壁を塗った場合もありましたが、強度的には裏返し塗りをしたほうが下地の竹も空気に触れることもなくなり良いでしょう。土塗り壁仕様では壁を乾燥させる必要があるため、建物完成までの工期が長くなります。今の住宅はほとんどが乾式工法なので、3ヵ月もすれば出来上がってしまいますが・・・。

土塗り壁は、竹を組んだ小舞壁にシュロ縄などを巻き付けて荒壁を造り、壁の片面を塗り上げます。古い住宅などには片面だけ荒壁を塗った場合もありましたが、強度的には裏返し塗りをしたほうが下地の竹も空気に触れることもなくなり良いでしょう。土塗り壁仕様では壁を乾燥させる必要があるため、建物完成までの工期が長くなります。今の住宅はほとんどが乾式工法なので、3ヵ月もすれば出来上がってしまいますが・・・。



右上の写真は、女性委員会で見学に行った神戸の『竹中道具館』の中にあるお茶室の骨組みの写真です。貫の使い方などが良くわかります。左上の写真は、壁を下塗、中塗、上塗と寒冷紗などを用い丁寧

に仕上げていく様子がよくわかります。茶室の場合は特に壁が薄いので厚みは3cmあるかないです。

建基法施行令第46条では、片面塗りの壁倍率は0.5倍ですが、告示1100号によると壁の塗り厚によって1.0～1.5倍まで耐力を見ることが出来ます。が・・・それでも筋違いより小さい数値というのはどうでしょう・・・？

最近は省エネ効果を高めるためとしてよく使われるものに珪藻土（けいそうど）仕上げがあります。吸湿性に優れているため人気があります。ただ珪藻土のものには接着力がないので、化学物質を混合して作られるものと、自然素材だけで作られるものがあります。建材として使う場合はその産地や内容に注意する必要があります。



左上の写真は、瀬戸内の児島市にある需要文化財の野崎邸の蔵群です。腰は焼板張りですが、壁は海鼠壁（なまこかべ）仕上げです。平瓦を貼り付けた後、目地をしっくいで盛り上げて作ってあります。右上の写真は高知の民家で見つけたものです。雨が多い土佐では、水切りをよくした工法（土佐漆喰塗り）で強い壁を造ることが多いです。こういった手法は関西以西でよく見受けられますが、台風対策のひとつでしょうか？



ちょっと特殊な例ですが、左上の写真は愛媛の内子町で見つけた漆喰彫刻で、建物の懸魚（げぎょ）の部分に装飾と防火のおまじないを兼ねて左官仕事で造られています。右上の写真は、は山形の銀山温泉で見つけた戸袋の部分に旅館の名前を左官で造られている鰻絵（こてえ）です。伊豆の松崎町や大分の安心院（あじむ）町も鰻絵で有名ですね。

今回、フープのお話があり、『建築』に対し何を書いて良いのかと困惑していたところ、「建築に対しての事だけでなく、自分の事やその他、内容は幅広く考えてください」と寛大な助言をいただいたことで、誠に僭越ながら私が建築に係れる仕事を志したきっかけをお話させて頂くことにしました。

それは、叔父の喫茶店をリニューアルすることになった時でした。小さい頃から、家の間取りを考えたり、インテリアのコーディネートを考えたり、絵を描くことが好きだった私をよく知る叔父が、『お店の内装デザイン・レイアウトなど、店舗の改装工事を手伝ってほしい。』と声をかけてくれたのです。私は、ほんの気軽な気持ちで手伝うことにしました。

そうして、叔父や叔母、大工さん達と打ち合わせが始まり、みんなの意見をまとめながら、素人ながら手書きの平面図やイメージスケッチを何枚も書きました。工事が始まってからも、毎日現場に顔を出し、職人さん達と何回も打ち合わせをしました。

素人なので、計画平面図と現場での寸法違いや絵に描くようには、実際には納まらないなどという問題点が、幾つも出てきて職人さん達を困らせることも多々ありました。

それでもイメージを壊さないように何とか進めたいと、叔父や職人さん達に何度も説明していると、みんなが段々と一緒になって考え、色んなアイデアを出し合うようになってきたのです。その結果、現場の段取りも次第にスムーズになり、工程も大幅に遅れることなく、予定通りオープンすることができました。納得するまで話し合っ、確認し合っ、完成したお店のオープンニングでは、『素敵なカフェになった！』と言ってくださる叔父や叔母をはじめ、工事に携わった方々みんなの笑顔でいっぱいになりました。こうして“モノ造りの楽しさ”を知った私は、同時に工事の経過の中で、プロの厳しさや職人さん達との考え方の違い、私に知識が無かった為に伝えきれなかった事や出来なかったことなど、

依頼者様の想いをカタチにすることの大切さを思い知ることとなりました。

でも、その事が私自身の中では大変だったという想いより、今までにないやりがいとして大きく心に残りました。この経験がもとで“建築”に本格的に興味を持ち初め、学びたいと思いました。

学生時代に建築を専攻していない私は、学校を歩き直すことも考えましたが、それより、住宅関連会社へ転職をすることを選択しました。

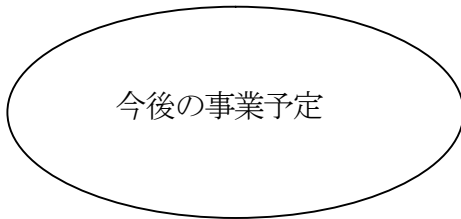
そして、いろんな仕事ができることを期待して工務店に入社。

当初私は、ショールームでお客様からのご相談の受け付けや、展示された住宅設備機器の説明やキッチンプラン、内装コーディネートのご提案が主な仕事内容の部署に配属され、そこで5年間を過ごした後、二級建築士の資格を取得し、施工管理で現場に出ることを希望しました。そしてさらに5年間現場経験を積み一級建築士の資格を取得しました。建築士としては、少し異色の経歴かもしれません。

しかしその経験を活かし、今日まで、お施主様と向き合うことを大切にしようと、家に対してのお悩みや、想い、ご要望などいろいろな話をまずお聞きする事を心がけてきました。一人一人向き合う事は、内容も多種多様であり、好みも十人十色……。お施主様の想いを一緒に考え、現場にわかり易くその想いを伝えカタチにして行くことは、未だに悪戦苦闘の連続ですが、最後にお施主様の笑顔が見ることができた時には、やはりやりがいを実感するので

そして、現在も一緒に現場でアイデアを出し合っ、てくださる職人さん達から学ぶことは尽きません。あの日をきっかけに今日も、建築の仕事に携わっていることに感謝しています。

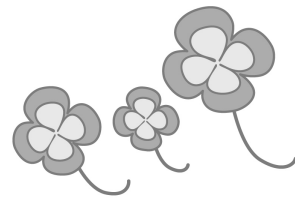




今後の事業予定

- 4月 1日 (水) ～5月11日 (月)
一級建築士試験申込書配布
- 4月 9日 (木) ～4月13日 (月)
二級・木造建築士試験申込受付
- 4月10日 (金) ～4月20日 (月)
一級建築士試験申込ネット受付
- 4月22日 (水) 住宅相談会 (奈良県建築士会館)
- 4月23日 (木) 理事会
- 5月 7日 (木) ～5月11日 (月)
一級建築士試験申込受付
- 5月19日 (火) 通常総会 (奈良県文化会館)
- 5月27日 (水) 住宅相談会 (奈良県建築士会館)
- 6月10日 (水) 建築士法改正に伴う講習会
(奈良県商工会議所)
- 6月16日 (火) 既存木造住宅の耐震診断・補強
設計講習会【限界耐力計算】 (奈良県建築士会館)
- 6月24日 (水) 住宅相談会 (奈良県建築士会館)
- 7月 5日 (日) 二級建築士試験 (学科)
- 7月22日 (水) 住宅相談会 (奈良県建築士会館)
- 7月26日 (日) 一級・木造建築士試験 (学科)
- 8月26日 (水) 住宅相談会 (奈良県建築士会館)
- 9月13日 (日) 二級建築士試験 (設計製図)
- 9月30日 (水) 住宅相談会 (奈良県建築士会館)
- 9月25日 (金) ～9月26日 (土)
第25回全国女性建築士連合協議会

- 10月 3日 (土) 近畿建築祭 (和歌山県)
- 10月11日 (日) 一級・木造建築士試験 (設計製図)
- 10月30日 (金) 建築士会全国大会 (石川大会)
- 10月28日 (水) 住宅相談会 (奈良県建築士会館)
- 11月25日 (水) 住宅相談会 (奈良県建築士会館)
- 12月16日 (水) 住宅相談会 (奈良県建築士会館)



*****編集後記*****

今年の春は雨が多く気温も低いようです。体調など崩されておられませんか？私はすっかり風邪をひき、花粉症と合わせて絶不調でした。皆様もご自愛くださいませ。今号の女性委員会見学会の記事を読ませていただき、見学された竹中大工道具館と日本民家集落博物館の様子がよくわかりました。都合が合わずに参加できなかったのですが、ぜひ訪れたい場所の一つに加わりました。訪れたことのない新しい建築を知ることができるのもフープの醍醐味ですね。

さて、フープの編集担当を2年間務めさせていただきましたが、今号で卒業となります。とても良い経験をさせていただきました。不行届きなところも多かったかと思いますが、皆様には暖かく見守っていただき、またご協力いただき、本当に感謝しております。ありがとうございました。
(渡邊 有佳子)
